

〔 声 明 〕

京大附属病院によるクラウドファンディング呼びかけを支持すると同時に、
陰圧室化のための予算措置を政府に要求する。

7月8日、京都大学医学部附属病院は、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、手術室・検査室等の陰圧室化を図るためのクラウドファンディングの呼びかけを始めました(<https://readyfor.jp/projects/kuhp-kyoto-u-pj1>)。京大職組は、この呼びかけを支持します。患者と病院勤務者の安全・健康を守りながら高度先端医療と救急対応を担うためには、療養室内の空気を外部に漏らさない陰圧室化が不可欠です。しかも、感染症拡大第二波に備えるためには、緊急の対応が必要です。

附属病院がクラウドファンディングの呼びかけをせざるをえないのは、コロナ禍のさなかに国会を閉じてしまった政府に緊急な対応を求めるのが難しいからです。第二次補正予算における「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」の対象には簡易陰圧装置が含まれていますが、用途が限定されている上に、人口呼吸器や病床の確保等あらゆる緊急対策を含めて総額3000億円に過ぎません。観光需要喚起のための「Go To キャンペーン」に1兆円を越える予算を計上していることを考えれば、政府は有効な感染症対策を図るための優先順位を明らかに見誤っています。

京大附属病院に限らず、多くの病院が感染症対応のために経営が悪化し、病院勤務者は疲弊しています。医療従事者を含めて200名を超える感染者を出した永寿総合病院をめぐってもクラウドファンディングが始められていますが、本来は民間の善意に委ねられるべきものではなく、政府の責任で税金を原資として行われるべきことです。京大職組は、ファンディングの呼びかけを、病院勤務者への感謝を表明する機会であると同時に、政府の無能・無策・無責任への憤りの表明の機会でもあると受けとめ、新型コロナ感染症患者を受け入れるすべての病院に陰圧室化のための予算措置を講じることを政府に要求します。

2020年7月10日

京都大学職員組合 中央執行委員会